



みんなできつくり・食べよう・食べよう・田舎そば



種まきから子どもたちが大活躍。おいしいそばが出来ました。

種まきから収穫、そば打ちを体験しました

地 区、の絆がたっぷり詰まった『そば』。高松農用地利用改善組合（清水達次組合長、71名）の皆さんの『そば打ち体験』にお邪魔しました。

今回の『そば打ち』はひと味違います。なんと、種まきから脱穀まで、地区の皆さんで大事に育てたそば粉を使っています。8月下旬に種まき、その後、刈り取り、脱穀作業を終え、約30キロを収穫しました。

そして、待ちに待った『そば打ち』の日。麵はもちろんそば粉100%使用。食育推進リーダーの清水美鈴さんは「そば粉だけでもおいしいけど、そば粉8に対して小麦粉2のつなぎを加える二八そばだと子どもでも作りやすい。また、打つてすぐにゆでると、麵がブツブツ切れにくいみたいね」と

コツを教えてくださいました。さらにダシの決め手は地域の方が育てた新鮮な「地鶏」だそう。干しシイタケ、ニンジン、ゴボウ、厚揚げなどのうまみもそばを引き立てます。はじめて体験する子どもたちは、おばあちゃんやおじいちゃんに習いながら、自分だけのそばづくりを楽しんでいる様子でした。清水組合長は「これをきっかけにもっと地域の絆を広めていきたい」と話してくれました。



高松農用地利用改善組合のみなさん
高松の海でとれた「にがり」を使って豆腐づくり体験も実施しました。今後も地区の皆さんで食育や地産地消の心を育てていきたいです。



楽しくバスケットを公式戦目指して

「チームワーク&楽しく」をモットーに

キ ャット、キュット。体育館にバスケットシューズの擦れる音が響き渡る。バスケット好きのメンバーが集まり、活動を続けている市内唯一の社会人バスケットボールチーム「モモちゃんず」。

チームは平成22年に結成され、今年で5年目を迎えました。「市内にチームもなく、バスケットがしたくてもできる環境がなかった」とチーム代表の小林祐太さんは当時を振り返りながら話してくれました。「バスケットがしたい」との思いで、小林代表ら5名でチームを作り、活動をスタート。今ではメンバーも13名に増え、週2回のバスケットを楽しんでいます。

平成27年の目標は県バスケットボール協会に登録し、協会が主催する公式戦に出場すること。公式戦を目指し、週2回の練習に加え、

リーグ戦への参加や練習試合など積極的に試合を重ね、チーム力を高めています。

小林代表は「これまでの活動でチームもレベルアップしてきた。公式戦にどんどん参加したい」と話してくれました。また、「串間のバスケット人口を増やすこともチームの役割の一つ」と話し、「バスケットをやりたい方は上手い下手関係なく、気軽に参加してほしい」と呼びかけていました。

バスケット好きが集まる「モモちゃんず」。チームワーク&楽しくをモットーに今日も汗を流しています。



モモちゃんずのみなさん
練習は火・木曜日の午後8時から北方中学校で行っています。興味のある方は気軽に見に来てください。



モモちゃんずの練習風景。週2回の練習を行っています。